

# 相談室便り

スクールカウンセラー 達富郁夫

## 〈きもち④〉

怒っている〈きもち〉をどんどんためていくと、病気になるかもしれない。いつかドカーンと爆発しちゃうかもしれない。そして、だれかを傷つけてしまうかもしれない。言葉で……、ゲンコツで……。



〈きもち〉は、心の中で、あなたにとっていちばん大切なことを教えてくれる。

〈きもち〉は、なにをするか、なにを言うか、なにが好きか、なにがキライか、あなたが決めるのを助けてくれる。

〈きもち〉って、ほんとにいい友だちだ。

(パットパルマー著「自分を好きになる本」より)

## 何が見えるかな？

〈問題〉下の絵には、黒いシミのようなものがたくさん描かれています。

この絵の中に、実はとある絵が隠れています。さて、どんな絵が隠れているでしょう？



〈前回の解答〉

5つの模様的一部分をそれぞれ抜き出してみると、『モ・ミ・シ・ガ・リ』。つまり『紅葉狩り』になります。

## 『ありのままの子どもを認めること』について

以前、子どもを褒めることについて書いたかと思いますが、その続き…というか、もう少し高度な話をしようかと思えます。

子どもを褒めること、認めることは、その子どもの能力を伸ばすためにも必要なことです。ですが、最近私自身もいろいろな方のお話を伺う中で『子どもの良い部分を見つけて褒めたり認めたりする』あるいは『出来たことに対して褒めたり認めたりする』前に、『ありのままの今その瞬間の子ども自身を認めること』が必要なのだと感じるようになりました。どういうことかということ、最近の子どもたちを見ていると、『自分自身の存在価値を見出せていない子』がたくさんいるように感じます。

以前、素直に謝れる環境について述べた回にもお話ししましたが、子どもは大人に認めてもらいたいですし、褒めてもらいたい。でも、その裏側にあるのは、ちょっと大げさな言い方ですが、『自分自身の存在が否定されたくない』といった気持ちがあるのだと思います。ですから、出来たことややったことに対して褒めたり認めたりする前に、『何もない今現在の素の状態の子ども自身を認めること』によって、その子ども自身に存在価値があるのだということを大人が示す必要があるのです。それは結果として、子どもたちにとって自分自身が『いまここにいてもいいのだ』という安心感と存在意義を与え、いろいろな物事を学んでいく土台になるのだと思います。そうした土台が揺らいでいるからこそ、今の子どもたちはやる気が出なったり、安心して物事に取り組む意欲というものが持てないでいるのです。子どもは様々なことをしてくると思います。しかしながら、子どもたちに関わる大人として、子どもの存在そのものを認めてあげるといった関わり方が必要なのではないのでしょうか？

## 11・12の来校予定日

- 11月17日(水曜日) 10時～16時45分(吉舎中)
- 11月24日(水曜日) 10時～13時(吉舎中) 13時45分～16時45分(八幡小)
- 12月1日(水曜日) 10時～16時45分(吉舎中)
- 12月8日(水曜日) 10時～13時(吉舎中) 13時45分～16時45分(吉舎小)
- 12月15日(水曜日) 10時～16時45分(吉舎中)
- 11月22日(水曜日) 10時～13時(吉舎中) 13時45分～16時45分(八幡小)

相談には予約が必要です。相談のご希望がありましたら、各学校までご連絡の上、予約して頂きますよう、よろしくお願い致します。

- (吉舎中学校；0824-43-2115)
- (吉舎小学校；0824-43-2580)
- (八幡小学校；0824-43-2026)

